

# ECONOMY TOPICS

## 経済トピックス

2013.11.8

No.423



### 業況 BSI、3 期ぶりに上昇 (平成 25 年 7～9 月期の県内企業業況調査結果)

**調査内容** 平成 25 年 7～9 月期の県内企業の業況実績  
平成 25 年 10～12 月期の県内企業の業況見通し

**調査時期** 平成 25 年 10 月上旬

**調査対象企業** 県内中堅企業 232 社

**回答企業** 141 社(回収率:60.8%)

}	製造業	33 社	建設業	28 社	卸売業	28 社
	小売業	23 社	運輸業	10 社	サービス業	19 社
}						
	青森地区	48 社	津軽地区	37 社	県南地区	56 社

BSIとは

Business Survey Index の略であり、企業業況判断指標という意味である  
指標の求め方は次の通り

BSI=「業況良好企業及びやや良好企業の割合」-「業況不振企業及びやや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

# 1. 概 況

平成 25 年 7～9 月期の全産業「業況 BSI」は前期(25 年 4～6 月期)比 16.6 ポイント上昇の 0.7 となった。非製造業の運輸・サービス業、建設業の大幅な改善が全体を押し上げ 3 期ぶりに上昇した。

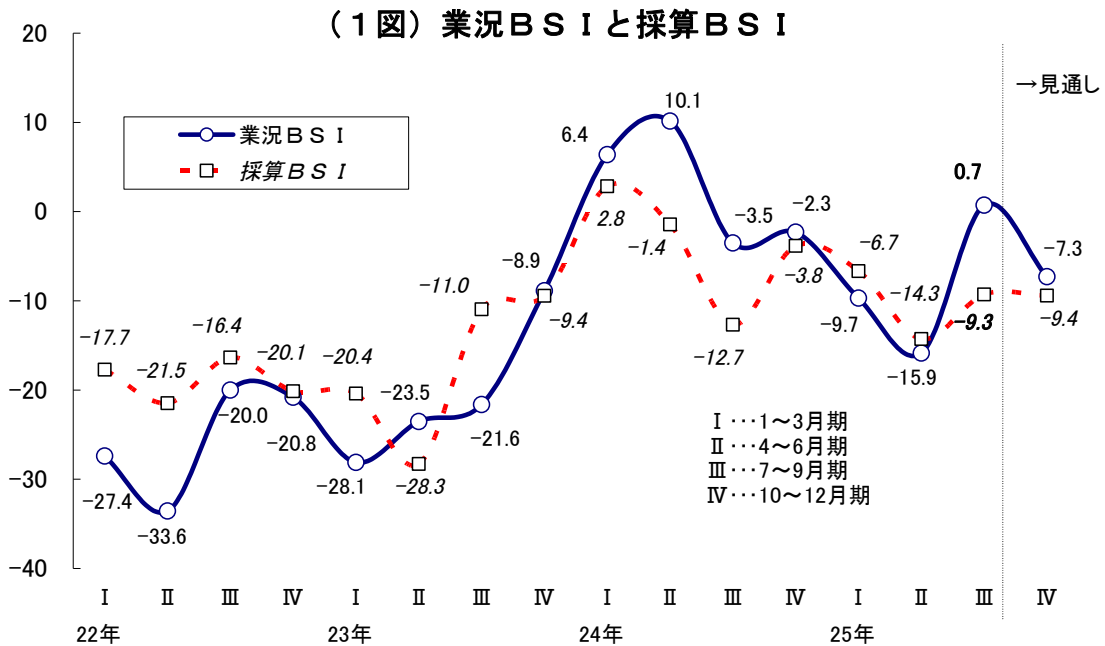
一方、全産業「採算 BSI」は同 5.0 ポイント上昇の△9.3 となった。運輸・サービス業の改善が全体を押し上げ、3 期ぶりに上昇した。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「操業度 BSI」はともに幾分低下した。建設業の「受注高 BSI」は 2 期連続で大幅に改善し、平成 8 年 10～12 月期以来、約 17 年ぶりにプラスに転じた。「売上高 BSI」は運輸・サ

ービス業が大幅に改善し、3 期ぶりに上昇した。「出荷高 BSI」は 2 期連続で上昇した。「仕入単価 BSI」は製造業が幾分低下したものの、非製造業が大幅に上昇し、3 期連続で上昇した。一方、「販売単価 BSI」は幾分の上昇にとどまり、価格ギャップは拡大した。「在庫投資 BSI」は製造業、非製造業ともに低下した。「設備投資 BSI」は製造業が 2 期連続で上昇、非製造業は 2 期連続で低下した。

来期の見通しについては、「業況 BSI」が低下、「採算 BSI」はほぼ横ばいとなる見通しである。

(以上、1～12 図,1 表 参照)



## 2. 25 年 7～9 月期の業況

### (1) 業 況 —運輸・サービス業、建設業で大幅改善—

25 年 7～9 月期の全産業「業況 BSI」は前期比 16.6 ポイント上昇の 0.7 となった。業況判断の内訳をみると、業況好転とした企

業の割合が同 10.1 ポイント増加の 34.3%、業況悪化とした企業の割合は同 6.4 ポイント低下の 33.6%となった。

産業別の「業況 BSI」をみると、製造業は前期比 0.2 ポイント低下の△6.1 とほぼ横ばいとなった。農産加工、酒類、木材・木製品、農業機械、電子部品・デバイス、精密機械で業況好転がみられた。一方、水産加工、調味料、飲料、裁縫、パルプ・紙、鉄鋼では悪化がみられた。

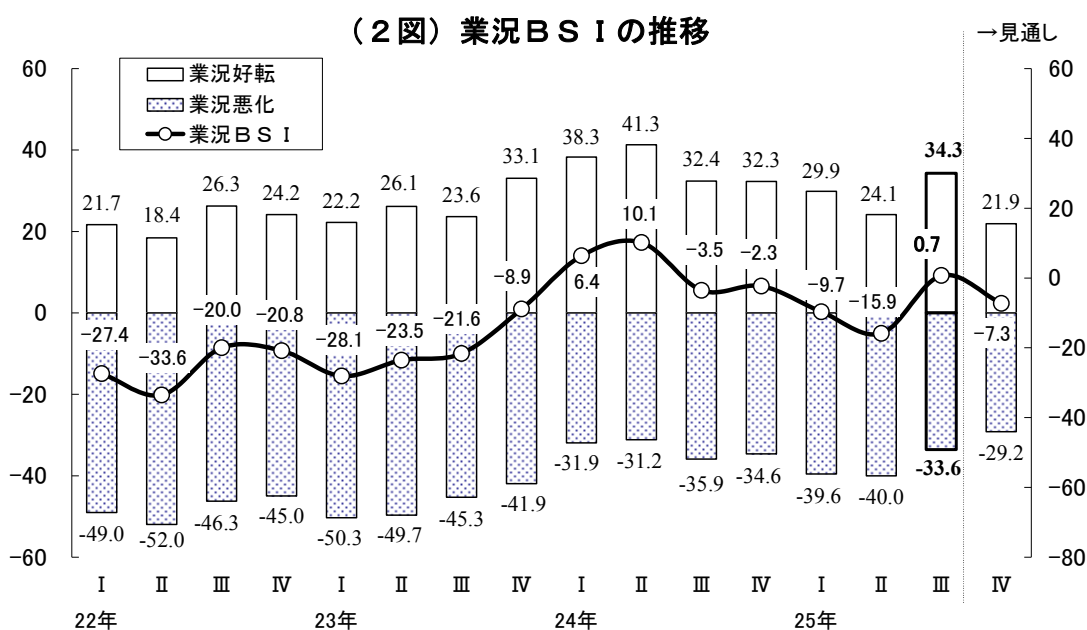
非製造業は、運輸・サービス業が前期比 47.8 ポイント上昇の 10.3、建設業が同 32.3 ポイント上昇の 28.6 と大幅に上昇したほか、卸売業が同 11.4 ポイント上昇の 8.0 となり、それぞれプラスに転じた。一方、小売業は同 15.1 ポイント低下の△45.5 となった。

運輸・サービス業は旅客運送、情報処理、旅行斡旋で悪化がみられたものの、道路貨

物運送、宿泊で好転の動きが広がったほか、ガス供給、信販、リース、広告で好転がみられた。建設業は総合建設業、設備工事の一部で悪化がみられたものの、好転が大半を占めた。卸売業は電気機器、菓子材料、燃料、紙類などで悪化がみられたものの、建設資材で好転とする割合が広がったほか、水産物、事務機器などで好転がみられた。小売業はスーパー、衣料品、乗用車、貨物自動車などで悪化が目立った。

当期の「業況 BSI」は 3 期ぶりに上昇し、プラスに転じた。非製造業の運輸・サービス業、建設業での大幅な改善が全体を押し上げた。

(以上、2 図、付表 参照)



(付表) 産業別業況 B S I の推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
24年 7-9 月期	-17.6	14.3	-17.9	-20.0	18.8	-3.5
24年 10-12 月期	-15.6	-11.5	20.7	5.6	-8.0	-2.3
25年 1-3 月期	-20.6	-14.8	20.0	-14.3	-14.8	-9.7
25年 4-6 月期	-5.9	-3.7	-3.4	-30.4	-37.5	-15.9
<b>25年 7-9 月期</b>	<b>-6.1</b>	<b>28.6</b>	<b>8.0</b>	<b>-45.5</b>	<b>10.3</b>	<b>0.7</b>
来期見通し	-9.1	3.6	12.0	-36.4	-10.3	-7.3

## (2) 採算の状況

### — 「採算BSI」3期ぶりに上昇—

25年7～9月期の全産業「採算BSI」は前期比5.0ポイント上昇の△9.3となった。採算判断の内訳をみると、採算好転とした企業の割合は同1.3ポイント増加の12.9%、一方、採算悪化とした企業の割合は同3.8ポイント減少の22.1%となった。

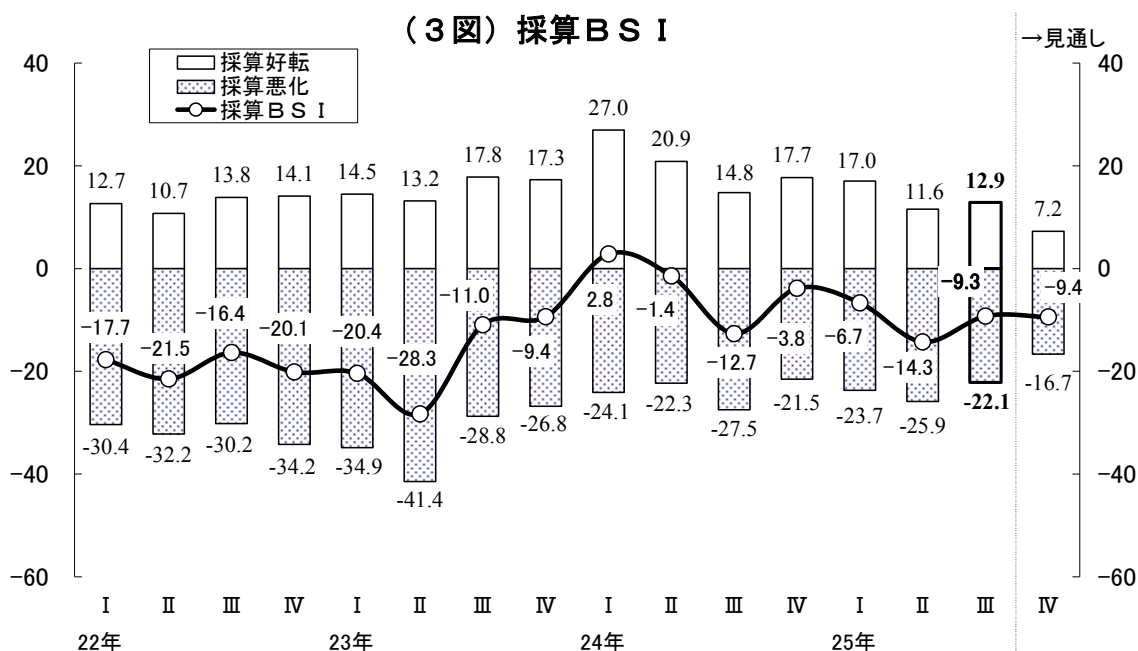
産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比3.6ポイント低下の△18.8となった。木材・木製品で採算好転が目立ったものの、水産加工、調味料、養鶏、飲料、パルプ・紙、鉄鋼で悪化がみられた。

非製造業は、運輸・サービス業が前期比27.9ポイント上昇の△3.4と大幅に上昇したほか、建設業が同7.2ポイント上昇の3.6、卸売業が同2.6ポイント上昇の△10.7となった。一方、小売業は同13.2ポイント低下の△17.4となった。

運輸・サービス業は旅客運送で悪化がみられたものの、道路貨物運送で好転が目立ったほか、宿泊で悪化とする割合が減少した。建設業は悪化とする割合が減少し、総合建設業で好転がみられた。卸売業は水産物、電気機器、紙類、漁具などで悪化したものの、衣料品、事務機器で好転がみられた。小売業は燃料、家電で好転がみられたものの、スーパーの一部、パン、乗用車、貨物自動車、農業機械で悪化した。

当期の採算BSIは小売業で厳しい状況がうかがわれるものの、運輸・サービス業の改善が全体を押し上げ、3期ぶりに上昇した。

(以上、3図、付表 参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
24年 7- 9月期	-3.0	-17.9	-25.0	-23.8	0.0	-12.7
24年10-12月期	-16.1	-15.4	17.2	5.6	-7.7	-3.8
25年 1- 3月期	-20.6	0.0	-7.7	4.8	-3.7	-6.7
25年 4- 6月期	-15.2	-3.6	-13.3	-4.2	-31.3	-14.3
<b>25年 7- 9月期</b>	<b>-18.8</b>	<b>3.6</b>	<b>-10.7</b>	<b>-17.4</b>	<b>-3.4</b>	<b>-9.3</b>
来期見通し	-12.5	-10.7	-3.7	-18.2	-3.4	-9.4

### (3) 生産高・操業度の状況 — 「生産高BSI」幾分低下 —

25年7～9月期の「生産高BSI」は前期比2.9ポイント低下の0.0となった。一方、「操業度BSI」も同2.9ポイント低下の0.0となった。

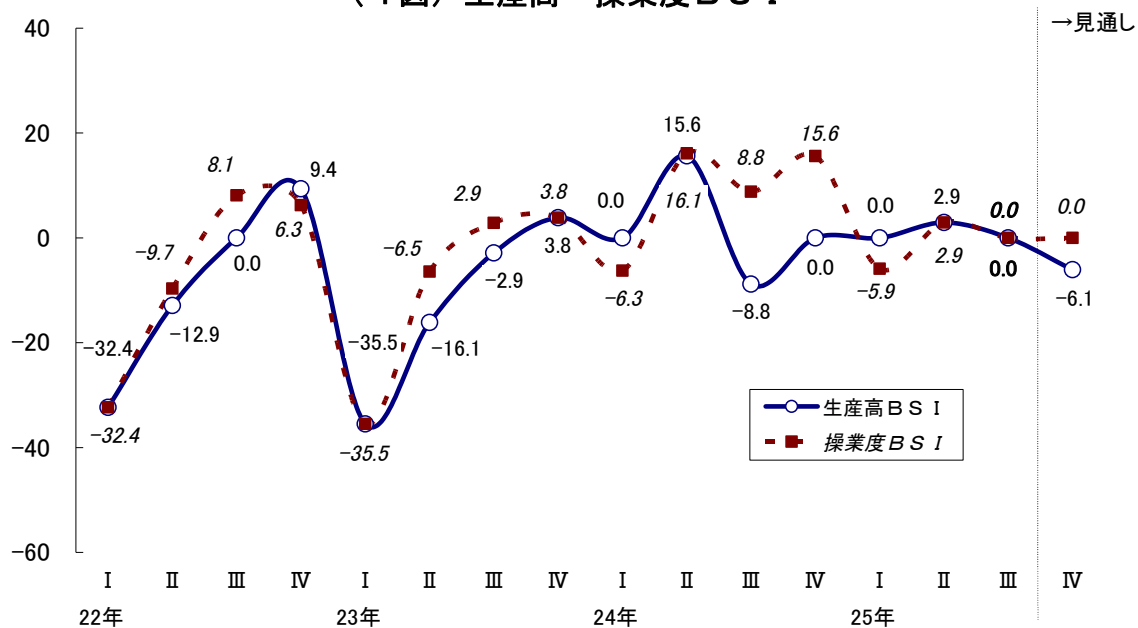
木材・木製品、鉄鋼、農業機械、電子部品・デバイス、精密機械で増産の動きがみられたものの、水産加工、調味料、飲料、裁縫、

パルプ・紙で減産がみられた。

来期は当期とほぼ同様の動きが見込まれており、「生産高BSI」が当期比横ばいの0.0、「操業度BSI」は同6.1ポイント低下の△6.1となる見通しである。

(以上、4図参照)

(4図) 生産高・操業度BSI



#### (4) 受注高の状況 —「受注高 BSI」2 期連続で大幅改善—

25 年 7～9 月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 42.9 ポイント上昇の 39.3 と 2 期連続で大幅に改善した。BSI がプラスに転じたのは平成 8 年 10～12 月期以来約 17 年ぶりである。内訳をみると、受注増加とした企業の割合が同 28.5 ポイント増加の 57.1%、一方、受注減少の割合は同 14.2 ポイント減少の 17.9%となった。

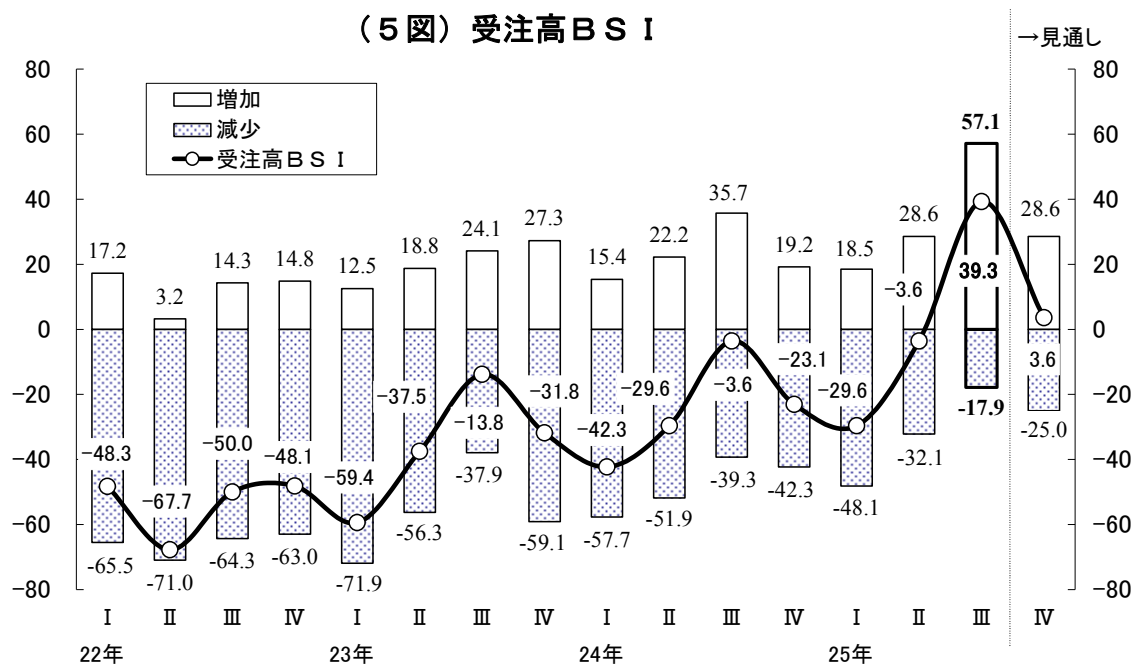
当期は公共工事の発注増加などから土木、総合建設業で受注増加に転じる動きが目立ったほか、消費税率引き上げ前の住宅

着工戸数増加から住宅建設も受注増加がみられた。

来期は受注増加とする割合が当期比 28.5 ポイント減少の 28.6%、受注減少とする企業の割合は同 7.1 ポイント増加の 25.0%と見込まれている。この結果、「受注高 BSI」は同 35.7 ポイント低下の 3.6 と当期比大幅に低下するものの、プラスにとどまる見通しである。

(以上、5 図 参照)

(5 図) 受注高 BSI



#### (5) 売上高・出荷高の状況 —運輸・サービス業が大幅改善—

25 年 7～9 月期の「売上高 BSI」は、前期比 16.6 ポイント上昇の 3.8 となり、3 期ぶりに上昇した。

産業別の「売上高 BSI」をみると、運輸・サービス業が前期比 46.5 ポイント上昇の

20.7 と大幅に改善し、小売業が同 3.3 ポイント上昇の  $\Delta 21.7$  となった。一方、卸売業は同 2.6 ポイント低下の 7.1 となった。

運輸・サービス業は旅客運送、情報処理などで減少したものの、道路貨物運送、宿

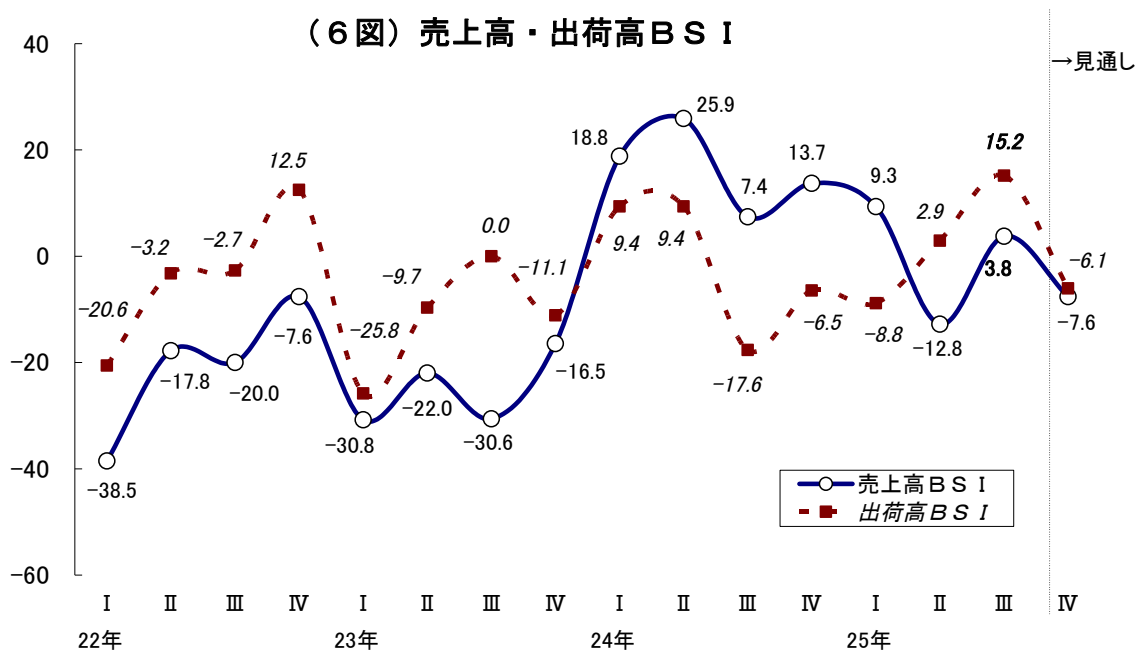
泊で売上増加の割合が広がったほか、信販、リース、介護でも増加がみられた。小売業は衣料品、乗用車、農業機械、家電などで減少したものの、スーパー、燃料、事務機器で増加がみられた。卸売業は水産物、建設資材、事務機器、燃料で増加がみられたものの、衣料品、菓子材料、電気機器、紙類などで減少した。

なお、来期の「売上高 BSI」は小売業で上昇が見込まれるものの、卸売業、運輸・サービス業で低下する見通しとなっている。全体では当期比 11.4 ポイント低下の△7.6 となる見通しである。

製造業の 25 年 7～9 月期の「出荷高 BSI」は前期比 12.3 ポイント上昇の 15.2 となり、2 期連続で上昇した。養鶏、水産加工、飲料、裁縫、パルプ・紙、砕石などで出荷減少がみられたものの、農産加工、酒類、木材・木製品、鉄鋼、農業機械、電子部品・デバイス、精密機械で増産の動きがみられた。

来期の「出荷高 BSI」は、水産加工で出荷減少の割合が広がるほか、生コンで減少に転じる動きが見込まれており、当期比 21.3 ポイント低下の△6.1 となる見通しである。

(以上、6 図、付表 参照)



(付表) 売上高・出荷高 B S I の推移

	出荷高BSI	売上高BSI			
		製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス
24年 7～9月期	-17.6	-3.6	-19.0	34.4	7.4
24年10～12月期	-6.5	17.2	16.7	7.7	13.7
25年 1～3月期	-8.8	19.2	0.0	7.1	9.3
25年 4～6月期	2.9	9.7	-25.0	-25.8	-12.8
<b>25年 7～9月期</b>	<b>15.2</b>	<b>7.1</b>	<b>-21.7</b>	<b>20.7</b>	<b>3.8</b>
来期見通し	-6.1	-3.7	-17.4	-3.4	-7.6

## (6) 価格の状況

### —3 期連続で価格ギャップが拡大—

25年7～9月期の「仕入単価 BSI」は前期比 8.0 ポイント上昇の 52.3 と 3 期連続で上昇した。産業別にみると、製造業が前期比 0.3 ポイント低下の 43.8 となった。一方、非製造業は同 11.4 ポイント上昇の 55.8 となった。

製造業は前期に続き、食料品全般、パルプ・紙、生コン、精密機械と幅広い業種で仕入単価上昇の動きがみられた。

非製造業は、建設業が前期比 14.3 ポイント上昇の 71.4、小売業が同 10.9 ポイント上昇の 50.0、卸売業が同 7.7 ポイント上昇の 44.4 となった。

建設業は仕入単価上昇とする割合が大幅に増加し、7割を占めた。また、低下とする回答はゼロであった。小売業は乗用車の一部、百貨店で低下がみられたものの、スーパー、パン、酒類、燃料、貨物自動車、家電で上昇した。卸売業は青果物、米穀で低下がみられたものの、水産物、建設資材、燃料、紙類、漁具で上昇した。

25年7～9月期の「販売単価 BSI」は前期比 2.4 ポイント上昇の 6.4 となった。

産業別にみると、製造業が前期比 3.2 ポイント上昇の 6.1、非製造業が同 2.2 ポイント上昇の 6.5 となった。

製造業は養鶏、裁縫、鉄鋼、精密機械で販売単価低下がみられたものの、水産加工、農産加工、酒類、パルプ・紙、砕石、生コンで上昇した。

非製造業は、運輸・サービス業が前期比 13.2 ポイント上昇の 6.9、建設業が同 3.5 ポイント上昇の△3.6、卸売業が同 1.8 ポイント上昇の 17.9 となった。一方、小売業は同 12.4 ポイント低下の 4.3 となった。

運輸・サービス業は情報処理、旅行斡旋

で低下がみられたものの、宿泊で上昇が目立ったほか、ガス供給で上昇がみられた。建設業は総合建設、住宅建設で上昇がみられた。卸売業は青果物、菓子材料、燃料、米穀で低下がみられたものの、建設資材、水産物で上昇とする割合が広がった。小売業はスーパー、燃料、家電で上昇がみられたものの、衣料品、酒類、農業機械、乗用車、百貨店で低下した。

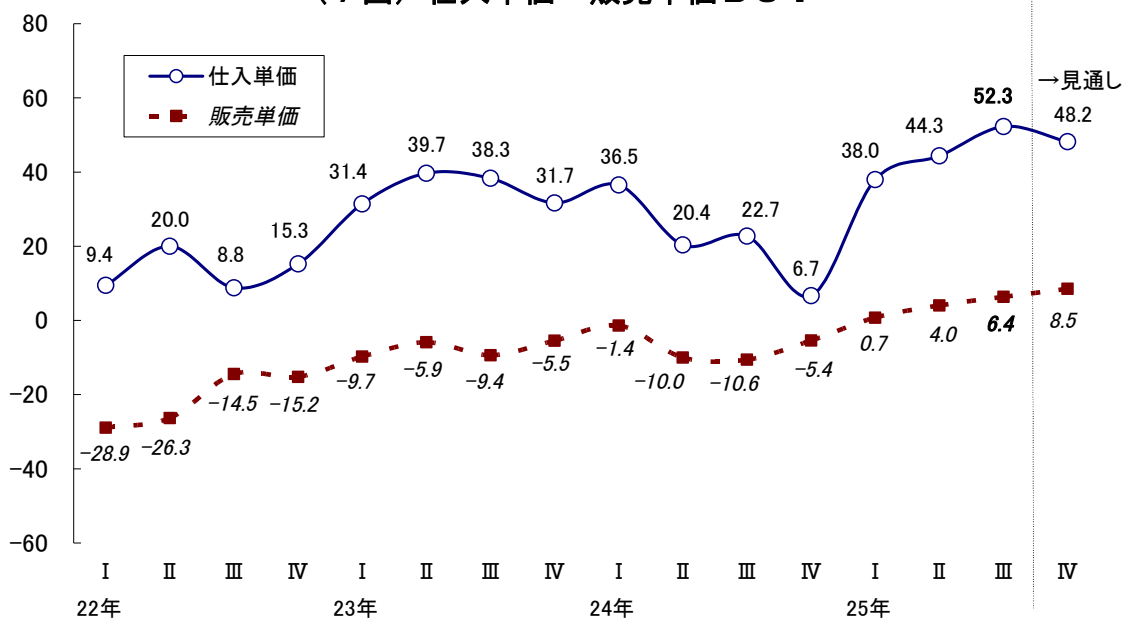
この結果、当期は価格ギャップが 3 期連続で拡大した。仕入単価の上昇に対し、販売単価への転嫁が進んでいない状況がうかがわれる。

なお、来期については、「仕入単価 BSI」が当期比 4.1 ポイント低下の 48.2 となる見通しである。一方、「販売単価 BSI」は同 2.1 ポイント上昇の 8.5 と緩やかな上昇が続くと見込まれており、価格ギャップは縮小する見通しである。

(以上、7 図、付表 参照)



(7図) 仕入単価・販売単価BSI



(付表) 仕入単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業				非製造業	仕入単価BSI
	建設業	卸売業	小売業			
24年 7-9月期	33.3	32.1	3.6	19.0	18.2	22.7
24年10-12月期	-3.2	19.2	3.4	5.6	9.6	6.7
25年 1-3月期	20.6	51.9	42.3	42.9	45.9	38.0
25年 4-6月期	44.1	57.1	36.7	39.1	44.4	44.3
<b>25年 7-9月期</b>	<b>43.8</b>	<b>71.4</b>	<b>44.4</b>	<b>50.0</b>	<b>55.8</b>	<b>52.3</b>
来期見通し	56.3	64.3	39.3	27.3	44.9	48.2

(付表) 販売単価BSIの推移 (上昇-低下)

	製造業					非製造業	販売単価BSI
	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス			
24年 7-9月期	-8.8	-25.0	-7.1	-4.8	-6.5	-11.1	-10.6
24年10-12月期	-6.3	-15.4	-7.1	5.6	0.0	-5.2	-5.4
25年 1-3月期	-11.8	-11.1	11.5	28.6	-3.6	4.9	0.7
25年 4-6月期	2.9	-7.1	16.1	16.7	-6.3	4.3	4.0
<b>25年 7-9月期</b>	<b>6.1</b>	<b>-3.6</b>	<b>17.9</b>	<b>4.3</b>	<b>6.9</b>	<b>6.5</b>	<b>6.4</b>
来期見通し	9.1	-3.6	28.6	0.0	6.9	8.3	8.5

## (7) 在庫投資・在庫水準の状況

### —「在庫投資 BSI」、製造業、非製造業とも手控えの動き—

25年7～9月期の「在庫投資 BSI」は、製造業が前期比 6.2 ポイント低下の△9.1、非製造業は同 7.6 ポイント低下の△4.0 となった。

製造業は木材・木製品の一部や鉄鋼で在庫積み増しがみられたものの、水産加工、酒類、調味料、裁縫、パルプ・紙で手控えの動きがみられた。非製造業をみると、卸売業の菓子材料、建設資材、事務用品、小売業のスーパー、農業機械などで積み増しの動きがみられたものの、卸売業の電気機器、燃料、小売業の衣料品、貨物自動車、電気機器などで手控えとなった。

なお、来期の在庫投資 BSI は、製造業が当期比 3.0 ポイント上昇の△6.1、非製造業は同 8.0 ポイント上昇の 4.0 と見込まれている。

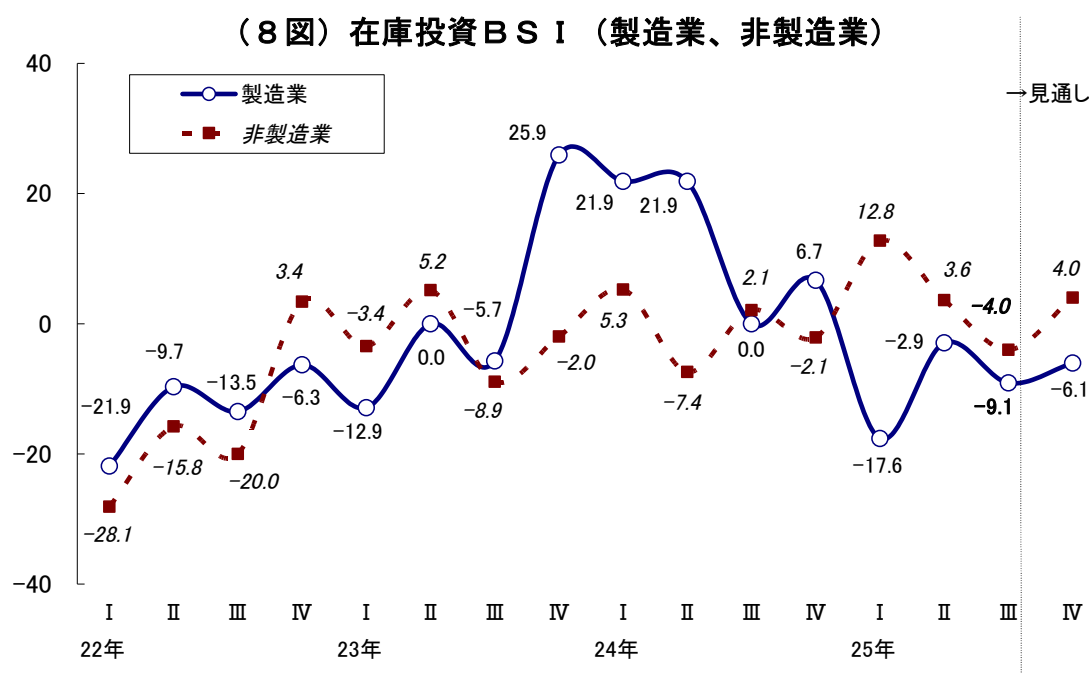
次に在庫水準についてみると、まず製造業の「原材料在庫水準 BSI」は前期比 0.3 ポイント低下の△9.4 となった。水産加工、

飲料、裁縫、木材・木製品で不足感がみられた。来期は「適正」とする割合が広がり、当期比 3.1 ポイント上昇の△6.3 と見込まれている。

一方、「製品・商品在庫水準 BSI」は、製造業の製品在庫水準 BSI が前期比 9.1 ポイント低下の△6.1、卸・小売業の「商品在庫水準 BSI」は同 1.1 ポイント低下の 9.8 となった。製品は飲料、パルプ・紙で過剰感がみられたものの、農産加工、酒類、鉄鋼で不足感がみられた。商品は卸売業の衣料品、水産物、菓子材料、小売業の農業機械などで過剰感がみられた。一方、小売業の乗用車販売一部では不足感がみられた。

来期は製品が当期比 6.1 ポイント上昇の 0.0 と適正水準に復し、商品は同 2.0 ポイント低下の 7.8 と幾分過剰感が和らぐものと見込まれている。

(以上、8 図,付表 参照)



(付表) 在庫関連BSIの推移

	在庫投資BSI		原材料在庫水準BSI	製品・商品在庫水準BSI	
	製造業	非製造業	製造業	製造業	卸・小売業
24年 7-9月期	0.0	2.1	-9.1	11.8	10.2
24年10-12月期	6.7	-2.1	0.0	3.1	8.5
25年 1-3月期	-17.6	12.8	-2.9	12.1	8.5
25年 4-6月期	-2.9	3.6	-9.1	3.0	10.9
<b>25年 7-9月期</b>	<b>-9.1</b>	<b>-4.0</b>	<b>-9.4</b>	<b>-6.1</b>	<b>9.8</b>
来期見通し	-6.1	4.0	-6.3	0.0	7.8

## (8) 設備投資の動向

—製造業が上昇、非製造業は低下—

25年7～9月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比6.4ポイント上昇の15.2と2期連続で上昇した。一方、非製造業は同3.8ポイント低下の△1.0と2期連続で低下した。

製造業は、パルプ・紙で設備維持・更新、品質向上、効率化、鉄鋼で維持更新などの投資がみられたほか、精密機械で工場増設、酒類で製造設備増設などの積極的な投資も一部でみられた。

非製造業をみると、建設業は車輛・建設機械購入などの投資、卸売業は衣料品で省エネ照明設備、水産加工でエレベーター修理などの投資がみられたが、いずれも比

較的小規模な投資にとどまった。小売業はスーパーで新規出店、省エネ照明設備など投資、米穀で低温設備更新、乗用車販売で整備工場、貨物自動車で店舗新設などの投資がみられた。運輸・サービス業は鉄道で新駅設置、旅客・貨物運送で車輛購入や設備・車輛の維持更新、宿泊で内装工事、リースでレンタル資産購入、ガス供給でガス管入替などの投資がみられた。

なお、来期の「設備投資BSI」は、製造業が当期比12.2ポイント低下の3.0、非製造業が同1.9ポイント低下の△2.9とともに低下が見込まれている。

(以上、9図 参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)



## (9) 企業金融の動向

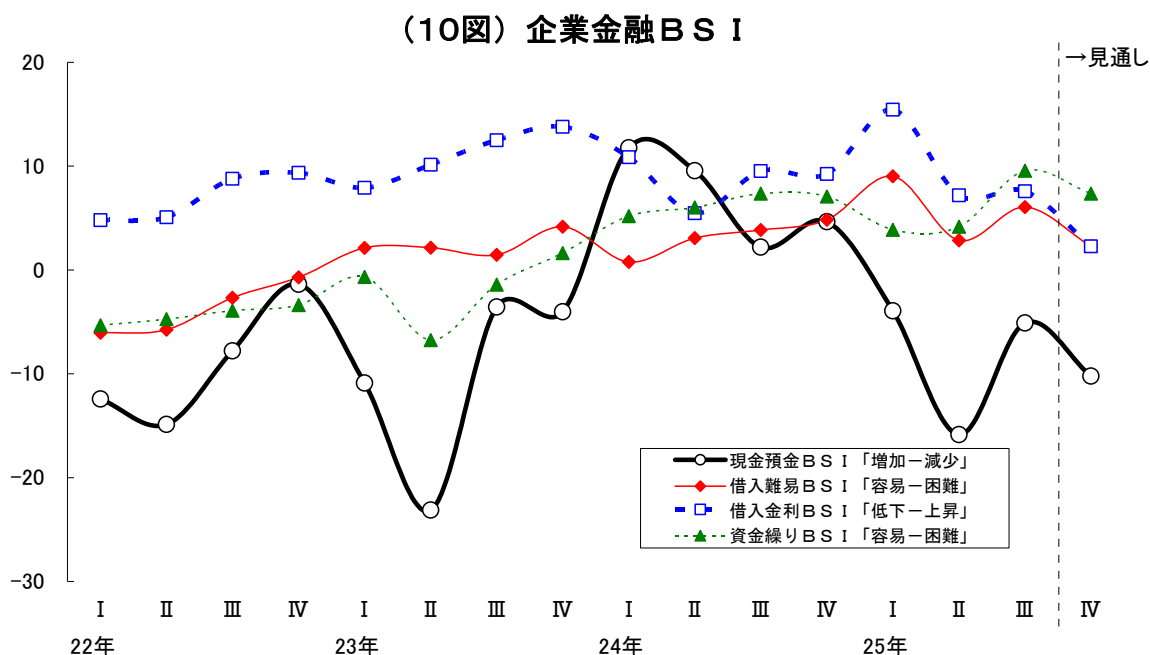
—手元資金の減少傾向が後退—

25年7～9月期の企業金融の動向をみると、「現金・預金BSI」が前期比10.8ポイント上昇の△5.1と大幅に上昇し、手元資金の減少傾向が後退した。「借入難易BSI」は同3.2ポイント上昇の6.1、「資金繰りBSI」は同5.4ポイント上昇の9.6となり、借入の難易度が緩み、資金繰り面で幾分の余裕がうか

がわかれた。また、「借入金利BSI」は同0.4ポイント上昇の7.6とほぼ横ばいの動きとなった。

来期は手元資金の厳しさ、借入金利の上昇傾向が強まり、借入難易度が再び増すものと見込まれている。

(以上、10図、付表 参照)



(付表) 企業金融BSIの推移

	現金預金BSI (増加-減少)	借入難易BSI (容易-困難)	借入金利BSI (低下-上昇)	資金繰りBSI (容易-困難)
24年 7-9月期	2.2	3.8	9.5	7.4
24年10-12月期	4.7	4.8	9.2	7.1
25年 1-3月期	-3.9	9.0	15.4	3.9
25年 4-6月期	-15.9	2.9	7.2	4.2
25年 7-9月期	-5.1	6.1	7.6	9.6
来期見通し	-10.2	2.3	2.3	7.4

## (10) 地区別の状況

—「業況BSI」3地区とも上昇—

25年7～9月期の「業況BSI」を地区別にみると、津軽地区が前期比28.8ポイント上昇の5.7、青森地区が同17.7ポイント上昇の△6.3と大幅に上昇したほか、県南地区も同7.3ポイント上昇の3.7と3地区とも上に

昇した。

主要BSIをみると、まず、「生産高BSI」は、津軽地区が前期比90.4ポイント低下の△33.3と大幅に低下し、青森地区が同19.4ポイント低下の△44.4となった。一方、県南

地区は同 38.6 ポイント上昇の 33.3 となった。

「出荷高 BSI」は、津軽地区が前期比 73.8 ポイント低下の△16.7 と大幅に低下した。一方、県南地区は同 38.9 ポイント上昇の 38.9、青森地区は同 26.4 ポイント上昇の△11.1 となった。

「売上高 BSI」は、津軽地区が前期比 49.0 ポイント上昇の 27.3 と大幅に上昇し、青森地区が同 11.8 ポイント上昇の 0.0 となった。一方、県南地区は同 3.8 ポイント低下の△10.7 となった。

建設業の「受注高 BSI」は、青森地区が前期比 66.6 ポイント上昇の 44.4、県南地区が同 40.0 ポイント上昇の 50.0、津軽地区が同 22.2 ポイント上昇の 22.2 と 3 地区とも大幅に上昇した。

「採算 BSI」は、津軽地区が前期比 12.1 ポイント上昇の△13.5、青森地区が同 7.2 ポイント上昇の△12.8 となった。一方、県南地区は同 1.9 ポイント低下の△3.6 となった。

来期の「業況 BSI」をみると、津軽地区が当期比 25.7 ポイント低下の△20.0、青森地区が同 2.0 ポイント低下の△8.3、県南地区が同 1.8 ポイント低下の 1.9 と 3 地区とも低下が見込まれている。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「売上高 BSI」は津軽地区、県南地区で低下し、青森地区では横ばいの見通しとなっている。「出荷高 BSI」、「受注高 BSI」は 3 地区とも低下する見通しとなっている。「採算 BSI」は青森地区、県南地区で上昇し、津軽地区で低下する見通しとなっている。

(以上、1 表 参照)

(1 表) 地域別 B S I の推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
24年 7－9月期	0.0	-21.1	5.3	12.5	-57.1	0.0	-12.5	-57.1	-5.3
24年10－12月期	0.0	-17.1	5.6	12.5	33.3	-16.7	0.0	16.7	-17.6
25年 1－3月期	-23.3	-5.3	-1.9	-28.6	40.0	-11.8	-42.9	20.0	-11.8
25年 4－6月期	-24.0	-23.1	-3.6	-25.0	57.1	-5.3	-37.5	57.1	0.0
<b>25年 7－9月期</b>	<b>-6.3</b>	<b>5.7</b>	<b>3.7</b>	<b>-44.4</b>	<b>-33.3</b>	<b>33.3</b>	<b>-11.1</b>	<b>-16.7</b>	<b>38.9</b>
来期見通し	-8.3	-20.0	1.9	-44.4	-50.0	27.8	-22.2	-50.0	16.7
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
24年 7－9月期	6.5	-21.7	33.3	0.0	0.0	-9.1	34.6	-31.6	-5.6
24年10－12月期	16.0	-20.0	35.7	-44.4	-33.3	12.5	12.0	5.9	-8.3
25年 1－3月期	-7.1	-15.0	44.4	-66.7	12.5	-30.0	11.5	5.0	-11.4
25年 4－6月期	-11.8	-21.7	-6.9	-22.2	0.0	10.0	-10.0	15.0	2.6
<b>25年 7－9月期</b>	<b>0.0</b>	<b>27.3</b>	<b>-10.7</b>	<b>44.4</b>	<b>22.2</b>	<b>50.0</b>	<b>-10.3</b>	<b>-23.5</b>	<b>5.4</b>
来期見通し	0.0	-4.5	-17.9	0.0	0.0	10.0	-6.9	-17.6	13.5
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
24年 7－9月期	15.2	-18.9	3.7	-10.9	-23.1	-7.0	13.3	-5.4	11.1
24年10－12月期	7.3	-18.2	3.9	0.0	-17.1	1.9	14.3	-6.3	9.4
25年 1－3月期	7.3	-2.7	5.8	-4.5	-29.7	7.4	13.6	-14.7	7.8
25年 4－6月期	8.3	-5.3	7.4	-20.0	-25.6	-1.7	13.7	-15.8	9.1
<b>25年 7－9月期</b>	<b>2.2</b>	<b>-8.6</b>	<b>11.1</b>	<b>-12.8</b>	<b>-13.5</b>	<b>-3.6</b>	<b>20.8</b>	<b>-11.4</b>	<b>13.2</b>
来期見通し	2.2	-17.1	5.6	-8.5	-25.7	0.0	20.8	-17.1	11.3

### 3. 経営上の問題点 —「仕入単価上昇」の割合が増加—

25年7～9月期の経営上の問題点については、「競争の激化」が63.0%でトップとなった。以下、「仕入単価上昇」が47.1%、「売上・受注不振」が41.3%、「収益低下」が34.1%、「人手不足」が23.2%などと続いた。「競争の激化」が依然としてトップを占める中、当期は円安による原材料価格、卸売価格の上昇などから「仕入単価上昇」の割合が増加し、2位(前期比5.8ポイント増)となった。

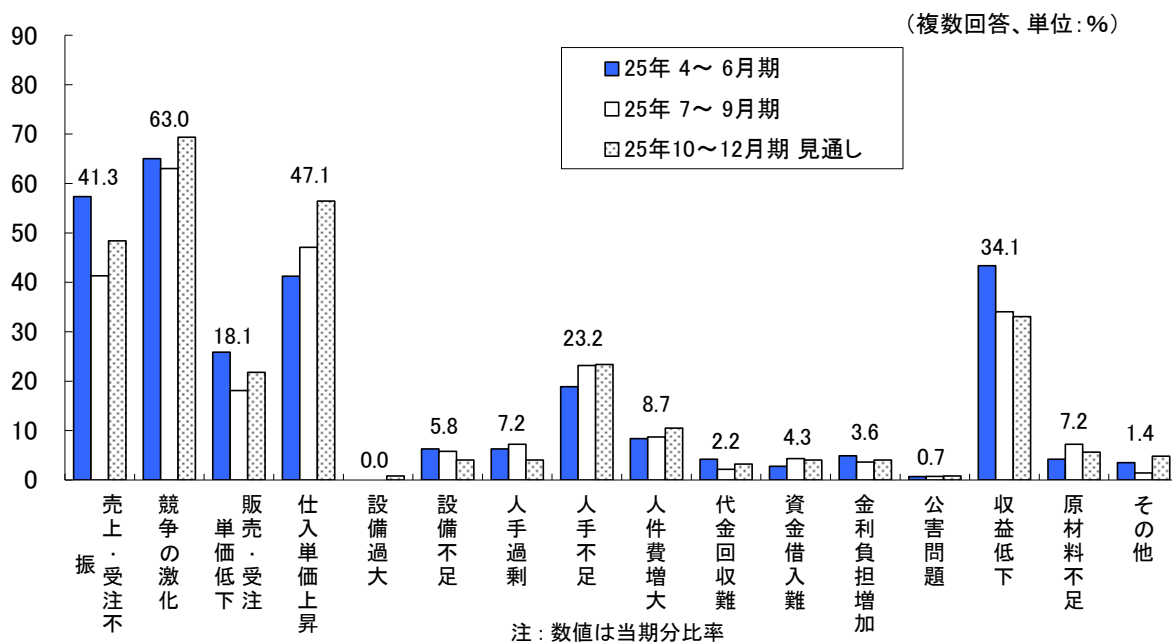
産業別にみると、各産業とも多少ばらつきがみられたものの上位3位に回答が集中した。「競争の激化」は全産業でトップとなった。2位の「仕入単価上昇」は卸売業(僅差で3位)以外の産業で2位となり、今期の業況へ

の影響が大きかったことがうかがわれた。「収益低下」は建設業が48.1%、運輸・サービス業が39.3%と高い割合となった。また、「人手不足」は建設業で37.0%となったほか、運輸・サービス業のうち運輸業については40.0%と高い割合を示した。

なお、来期の経営上の問題点については、「競争の激化」が当期比6.4ポイント増の69.4%となる。また、「仕入単価上昇」は同9.4ポイント増の56.5%となり、上昇傾向が強まる見通しである。

(以上、11図、付表 参照)

(11図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売・受注単価低下	仕入単価上昇	人件費増大	代金回収難	金利負担増加	収益低下
24年7～9月期	51.8	69.8	31.7	23.0	5.8	7.2	2.9	42.4
24年10～12月期	44.5	67.2	33.6	24.2	10.2	6.3	5.5	44.5
25年1～3月期	50.7	59.0	26.9	43.3	9.7	4.5	3.7	38.8
25年4～6月期	57.3	65.0	25.9	41.3	8.4	4.2	4.9	43.4
<b>25年7～9月期</b>	<b>41.3</b>	<b>63.0</b>	<b>18.1</b>	<b>47.1</b>	<b>8.7</b>	<b>2.2</b>	<b>3.6</b>	<b>34.1</b>
来期見通し	48.4	69.4	21.8	56.5	10.5	3.2	4.0	33.1

## 4. 来期の見通し

来期(25年10～12月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比8.0ポイント低下の△7.3となる見通しである。産業別にみると、建設業が同25.0ポイント低下の3.6、運輸・サービス業が同20.6ポイント低下の△10.3、製造業が同3.0ポイント低下の△9.1とそれぞれ低下が見込まれている。一方、小売業は同9.1ポイント上昇の△36.4、卸売業は同4.0ポイント上昇の12.0となる見通しである。

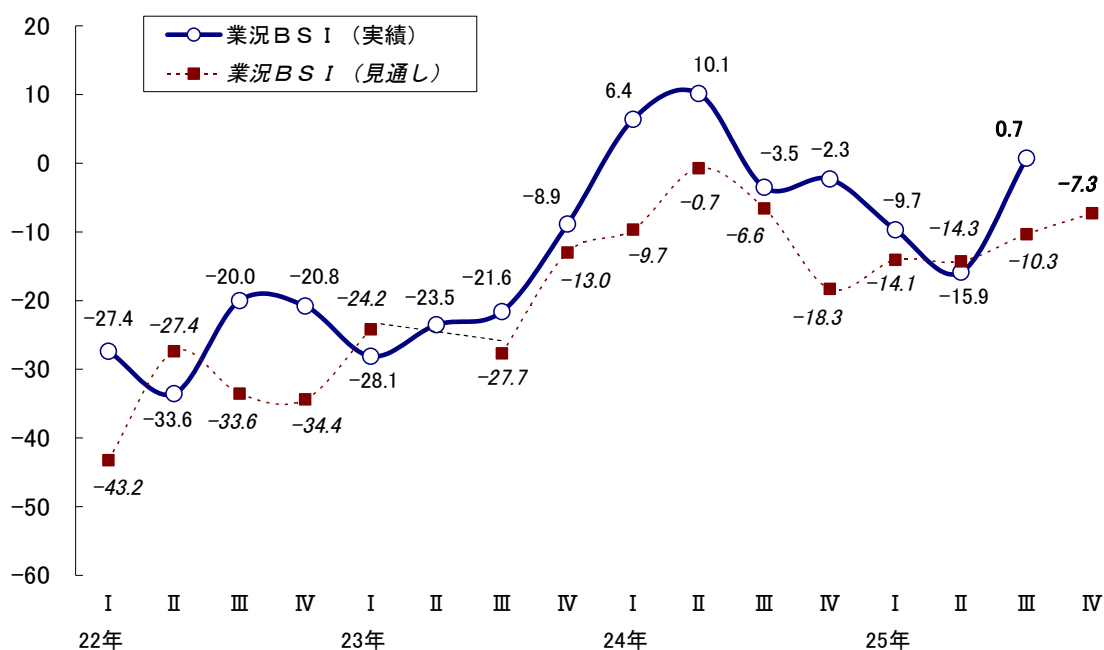
次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比0.1ポイント低下の△9.4と、ほぼ横ばいの見通しである。産業別にみると、建

設業が同14.3ポイント低下の△10.7、小売業が同0.8ポイント低下の△18.2となる見通しである。一方、卸売業は同7.0ポイント上昇の△3.7、製造業は同6.3ポイント上昇の△12.5となり、運輸・サービス業は同横ばいの△3.4と見込まれている。

来期の主要BSIは、「生産高BSI」、「受注高BSI」、「売上高BSI」、「出荷高BSI」が低下し、「操業度BSI」が横ばいとなる見通しである。また、「設備投資BSI」は製造業が上昇、非製造業は低下する見通しである。

(以上、1～12図、付表参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	25年7～9月期	-6.1	28.6	8.0	-45.5	10.3	0.7
	来期見通し	-9.1	3.6	12.0	-36.4	-10.3	-7.3
採算BSI	25年7～9月期	-18.8	3.6	-10.7	-17.4	-3.4	-9.3
	来期見通し	-12.5	-10.7	-3.7	-18.2	-3.4	-9.4

【 本件に関する照会先 】 一般財団法人 青森地域社会研究所  
担当：野里 TEL 017-777-1511